

近畿大会 報告

平成29年7月27日～28日

今年の全国大会は大阪にて行われました。参加者の感想をご紹介します。

◇総会・開会行事

大会主題：個々の子どもたちの課題に合う指導や支援のあり方を考える
～聴覚・言語障がい教育の専門性を高めるために～



◇記念講演「分かりやすく話したえるために～アナウンサーとしての経験をふまえて～」

とてもわかりやすかったです。声の出し方の練習やグループワークなど、楽しく取り組みながら相手への伝え方、聞き方など気付くことがたくさんありました。



相手のことばに耳を傾け、思いを引き出すことの難しさを感じました。先生の話の中に、怒りからくることばは、本質から外れることもあるため、ことばに支配されすぎないことも大切であると話されたことが印象的でした。

話のプロ、アナウンサーから聞く、相手の話を引き出すためのスキルは大変勉強になりました。また、近くの人とインタビューをし合うという場では、お互いにお互いのことを受け止め合うことでさらに話がはずんでいったと思いました。

◇パネルディスカッション「聴覚・言語障がい教育にかかわる担当者の専門性について」



教育分野だけでなく、医療関係者のパネリストがいて活発なディスカッションでした。

基本的な知識、アセスメント力、連携力など通級教員に必要な専門性とはなんなのかが具体的にみえてくるお話だったと感じました。

最後に言われていた、これからアクティブラーニングがどんどん現場で使われていくときに、聴覚・言語障がい教育に携わる者として、どう支えていけばよいか課題であると感じました。時代の流れにあった教育が進められていくとき、そのことを苦手とする子どもたちもいることを考慮して、その上で力が付くように支援していきたいと思っています。

◇講習会・分科会

構音障害、吃音、聴覚障がい、言語発達、発達障がい

漢字、ひらがなの覚えにくい通級児も多い。漢字の誤りの分析の仕方を詳しく教えていただき、それぞれの誤りの特徴に応じた支援の工夫をしていきたいと思いました。



ネガティブケイパビリティという力、初めて知りました。新しい視点をまた学級に持ち帰って考えていきたいです。

子どものやる気を起こさせるための支援を詳しく教えていただきました。特に、指導目的を「学級での適応を目指す」と設定し、「読み」を優先させることで、児童がやる気をなくしていた各教科の学習への参加度が上がる変容がみられたことが参考になりました。あえてしばって集中して支援することの大事さがわかりました。

ことばの発達には対人的相互性が不可欠であり、時間の流れを他者と共有したり、自分自身で過去を振り返ったりできることが、言語発達の一定のゴールであると教えていただきました。ことばの育ちについて具体的に学ぶことができ、有意義な時間となりました。

漢字の誤り分析が非常にわかりやすく、今までなんとなく捉えていたことが整理され、すぐにでも実践したくなりました。



構音指導について、指導者として知っておかなければならない基礎知識から指導法までお話していただき、大変勉強になりました。次からの指導ですぐ役立つことができました。

自分の知識の確認と、新しい担当の先生にどう伝えるのかを考えながら聞きました。大事なことを改めて確認できました。



先生が当事者として悩んでこられた背景や、今までのさまざまな実践をもとにしたお話はとても説得力があり、一貫して話された「対話」をどう日々の自分の実践に生かしていくのか考えさせられました。

これまで、言語発達、構音、吃音を一つ一つ独立した課題と捉えてしまっていました。今回の話を聞き、すべての課題に関連性があり、根底には言語の発達があるのだと学ばせていただきました。